

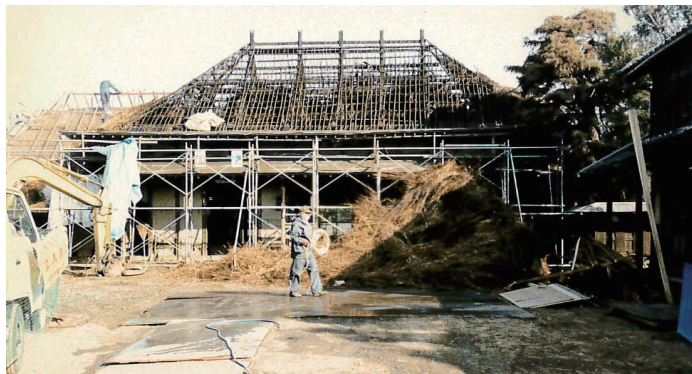
北区浮間の松澤家が 北区ふるさと農家体験館「旧松澤家住宅」になるまで

● 情報提供から調査へ

平成8年、江戸時代の創建と伝わる松澤家住宅の建て替えの連絡が北区教育委員会にはいります。北区では創建が江戸時代にさかのぼる民家は極めて少なくなっていたことから、建物の現況調査と聞き取り調査が実施されました。その結果、松澤家では弘化元年(1844)創建と伝わっていて、民家の構造等も江戸時代後期の可能性が高いことが確認できました。所有者が建物を寄贈する意向を示していたこともあり、北区は移築を前提とした建物の保存を決定します。

● 解体調査から復原へむけて

現地での保存は難しいことから、建物は移築のために一度解体する必要がありました。再び建て直すために、部材は慎重に外されました。併せて増改築の痕跡等の調査も進められ、主屋が大きな増改築を4回ほど行なっていることが判明。どの時代のかたちに復原すれば、松澤家の暮らし方の特徴を表すことができるか。どこに移築復原するか。さまざまな検討が重ねられました。



主屋の屋根解体により茅の残存が確認された



移築復原工事

● 復原工事そして公開へ

平成15年、整備中であつた赤羽自然観察公園で移築復原工事が開始されました。復原年代は創建時ではなく、主屋に馬屋が接続された明治初期の間取りにすることにしました。平成17年4月17日、浮間の松澤家住宅は「北区ふるさと農家体験館」として開館しました。

移築復原後は区民協働の活用事業を行う文化財保存公開施設として運用することが決まっていたため、復原工事中の現場公開や伝統的な建築技法を紹介する体験講座等が実施されました。参加された区民の多くが「ふるさと農家体験館運営協議会」のメンバーとなり、現在、古民家での事業を展開しています。



工事現場での解説会



ふるさと農家体験館運営協議会による
お月見団子づくり